

いけごいせきぐん

池子遺跡群

(逗子市No.140 遺跡)

調査期間

20061001～0070131
20070801～20071231

所在地

逗子市米軍池子住宅
地区及び海軍補助施
設内

時代

弥生時代～近世以降



作成日:20070830

概要

本調査は、南関東防衛局による池子米軍小学校新設事業に伴い事前に行われている発掘調査です。

本遺跡は、神奈川県遺跡台帳に逗子市No.140 遺跡として登録された遺跡で、京浜急行線神武寺駅の北西に広がる池

子川右岸の^{ちゅうせき}沖積低地及びそれに面する崖面に所在します。平成元年～6年にかけて池子米軍家族住宅建設に伴い約 119,700 m²の広大な面積が調査されました。今回の調査地点は住宅建設時の調査地点の北側に当たり、小学校建設に先立ち調査を行っています。標高は約 13～19m、総調査面積は 13,110 m²であり、今年度実施分は、昨年度調査地点の北に接続した 5,510 m²です。

中世以降と古代の遺構が検出されました。中世以降では、杭列が昨年度調査では7条、今年度は2条発見されていま

す。北西－南東方向に走る^{やと}谷戸に直交して、緩やかな弧状ないし直線状を呈していました。長さは約 20m～40m。杭列は等高線に沿って配されていることから、水と関係する施

設、水田の^{けいはん}畦畔などと関係がある遺構と思われます。



▲K8杭列



▲K9杭列

古代の遺構としては、昨年度の調査で、溝状遺構9条、杭
列3条、土坑^{どこう}1基、ピット40基が存在しました。溝状遺構は
谷戸の走行方向に合わせて、北西－南東方向に走るものが
多いが、傾斜がそれほど急ではないためか、^{いちじる}著しく蛇
行しているものが多く見られました。みな旧河道^{きゆうかどう}を利用
したものと考えられます。溝に直交して杭列を打ったもの、
溝に平行して数条の杭列を打ち、護岸状に作り、巨木を横た
わらせ堰^{せき}ないし橋のような機能を持たせたものなどが発見
されました。溝状遺構からはロクロ土師器の坏^{はじきつき}（平安時
代）や杭をはじめとする木製品・紡錘^{ぼうすいしゃ}車などが出土しま
した。また溝の底面に置かれたような状況で出土したウシの
下顎骨は祭祀^{さいし}に用いられた可能性が考えられます。



▲H4溝と巨木